

練馬通信

No. 382
平成31年2月
練馬第二小学校
校長 大槻 亨

平成に学ぶ

IT革命の平成

平成も残り三か月となりました。平成という時代でまず頭に浮かぶのは、インターネットの普及です。この三十年間でインターネットは目覚ましい発展を遂げました。コンピュータが小型化し、インターネットを世界中の人がどこでも使えるようになりました。IT革命の進行により、人工知能（AI）の技術は、日に日に進化を遂げています。そして今やモノがインターネットにつながるIoTの時代が到来しました。平成が始まった頃には夢だったことがどんどん現実のものとなってきました。これからも技術の進歩は止まる所を知らないでしょう。

イギリスのオックスフォード大学のマイケル・オズボーン博士は、「雇用の未来」という論文の中で、「現存する職種の四十七%がAIに奪われる」と言及しています。AIの技術が進展していけば、その数値はさらに拡大し

校長 大槻 亨

ていくかもしれません。また、今の子供たちが就職する頃には、今は存在しない職業に就職することになるかもしれません。そのためにもAIに動かされるのではなく、AIを活用して力を磨く必要があります。そして、AIにはない力を伸ばすことが大切となります。AIにはない力とは、人間関係を円滑にするコミュニケーションの力です。コミュニケーションにおいては、相手のことを理解し、相手を思いやる心が不可欠です。それこそ人間らしさであると思います。

災害に見舞われた平成

平成という時代でもう一つ忘れてはならないのが災害です。阪神・淡路大震災と東日本大震災の二つの大震災が発生し、災害への備えや危機管理が問われるようになってきました。

日本漢字能力検定協会が毎年発表している「今年の漢字」が始まったのは、平成七年です。その年は、阪神・淡路

大震災が発生し、「震」と発表されました。そして平成最後の昨年の漢字は「災」でした。平成の「今年の漢字」の始まりと終わりで「震」「災」の文字が並んだのは、災害に見舞われた平成を物語っているとも感じます。

災害を経験する中で、ボランティアの活動が洗練されていったのも平成の特徴と言えます。阪神・淡路大震災発生のは、日本の「ボランティア元年」と呼ばれています。当時、被災地には日本全国をはじめ、世界各地から多くのボランティアが駆けつけました。被災地の小学生たちも「自分にできることは何か」と主体的に考え、ボランティアに取り組みました。

今後も災害はいつ発生するか分かりません。想定外の出来事が発生しても、それに向き合い、生き抜く力が必要です。指示を待つのではなく、主体的に何事にも取り組める力が求められるのです。

これからの新しい時代を生きる子供たちは、激しい変化に対応できる知恵や生きる力が必要となります。今回の学習指導要領が改訂された趣旨も子供たちが二十一世紀をたくましく生き抜くためのものです。平成の出来事に学び、未来を見据えながら子供たちの育成に努めていくことが大切であると考えております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

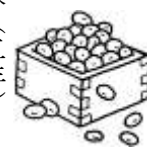
二月の行事予定

- 4 (月) 委員会活動
- 6 (水) 六時間授業 (三〜六年)
- 7 (木) クラブ紹介集会①
- 9 (土) クラブ紹介集会②
- 学校公開三時間授業
二分の一人式 (四年)
- 11 (月) 建国記念の日
- 13 (水) 午前授業
- 14 (木) マラソン月間終
- 15 (金) 避難訓練、煙体験 (二年)
新一年生入学説明会
午前授業 (二年)
- 18 (月) お話の会 (一、二年)
クラブ活動・クラブ見学 (三年)
- 19 (火) お話の会 (三、四年)
保護者会 (五、六年)
- 20 (水) 薬物乱用防止教室 (六年)
- 21 (木) ファミリールール (三、四年)
保護者会 (三、四年)
- 22 (金) お別れスポーツ大会 (五、六年)
- 25 (月) PTA総会
- 26 (火) 保護者会 (一、二年)
- 27 (水) 六時間授業 (三〜六年)
- 28 (木) 六年生を送る会 (三校時)

★今月の生活目標

- ・ じょうぶな体をつくろう。
- ★週の生活目標

- ・ 上着をぬいで遊ぶ。
- ・ 寒さに負けず元気に遊ぶ。



二分の一人式に向けて

四年担任

四年生は、二月九日(土)の二、三時間目に、「二分の一人式」を行います。

「二分の一人式」は、十歳という節目の歳を迎えたことを祝い、今までお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えるとともに、これからの夢や目標に向けての決意を表明する式です。

まず、各クラスで大人について考える授業をしました。「あなたが考える大人とは」というテーマで話し合うと、「家族のために働いている」「たくさんのお金を知っていて何でも自分でする」などいろいろな意見が出ました。そして、そんな大人になるために今からできることを考えました。

「二分の一人式」では、自分のよさを伝えるCMを作って流したり、手紙や歌やよびかけで感謝の気持ちを伝えたりできるように準備しています。また、「二分の一人式実行委員会」の子供たちが、案内状の作成、会場の装飾、司会原稿の準備などを行っています。

共にお互いの成長を祝い、感謝の気持ちをもてる会にしていきたいと思っています。保護者の皆様の思い出に残る会になるよう取り組んでまいります。

マラソン月間について

体育的行事部

一月二十四日(木)から二月十四日(木)までの中休みの時間、全校で「マラソン」に取り組みます。

長い距離を走るとは、筋持久力や心肺機能が高まり、冬の寒さに負けない健康な体を作ることにつながります。また、目標を設定して毎日取り組むことで、粘り強く物事に取り組む姿勢も身に付けてほしいと考えています。

中休みの時間に走った周回数をカードにぬっていきます。各学年にあつたカードがあり、完走することで完走証になり、自分の取り組んだ証として残ります。一人一人が、無理なく自分の目標をもって、意欲的に取り組むことで、走ることの楽しさや喜びを感じて欲しいと思います。

ご家庭でも、ぜひ励ましの声をかけていただきますようお願いいたします。



あいさつ運動 川柳大会

生活指導部

毎年、一月下旬に全校児童で「あいさつ運動 川柳大会」に取り組みんでいます。「きたえ国語」の時間に二年生以上が実施しています。一年生は、担任と一緒にいきます。

あいさつは人と人との心をつなぐ上でも大切なことです。日々の指導に加えて、年一回あいさつ運動として取り組み、気持ちのよいあいさつをしようという意欲を喚起したり、あいさつの大切さを考えたりする機会にしています。

「川柳」は難しいところもあります。が、「五・七・五」のリズムを楽しんで、挨拶への思いを表現してほしいと考えています。

子供たちが一生懸命考えて取り組む「川柳」、毎年、素敵な作品がうまれています。その中から、各学年三点が優秀賞に選ばれます。二月の学校公開日のときには昇降口に展示しますので、ぜひ見てください。



少人数算数指導の学習

少人数算数担当

今年度も、算数では三、六年生の二学級を四コースに分け、習熟度別少人数指導を進めています。担任と講師の先生とが連携をとり、一人一人に応じたきめ細かい指導を行っています。

習熟度別の少人数授業を行うことにより、今まで自分から進んで発表できなかった子供が手を挙げるようになったり、恥ずかしがらずに質問ができるようになったり、子供たちの様子に変化が見られるようになりました。ぐんぐん(発展)コースでは、自分の意見を説明できることを目指し学習を進めています。

今後も子供たちが「分かった。できた。楽しい。」と思えるよう、分かりやすい授業づくりを心がけていきます。

